

# カトリック六甲教会 教会報

2011  
10  
No.478

## ボランティアの秋



主任司祭 松村 信也

秋と言えば、食欲の、読書の、スポーツの秋と定番形容詞の付いた「豊穰の秋」を物語ってきましたが、今秋は“ボランティアの秋”を追加し、更に豊かな秋を実践しませんか。

東日本の大震災による被災地へのボランティア、台風 12 号の被災地のボランティア、あるいはご高齢者への介助ボランティア、市区町村で必要とされるボランティア活動にあなたも積極的に参加してみませんか。

今夏、六甲教会高校生会は“東日本大震災の被災地”へボランティアに行き、その活動報告が九月のミサ後に行われました。その時の彼らの報告から“人のつながり”の大切さ、さらに人は皆“All for One”であり、“One for All”でありたいとボランティア活動で得た実りを分かち合ってくれました。

ボランティアとは、“自発的に志願する”と言う意味ですが、その自発的な行いを通して「人としての存在のあり方、いかに生きるか」ということを、教えられるのではないのでしょうか。自発的な活動、損得を考えない積極的な奉仕が、参画する一人ひとりの目に観ることの出来ない、耳にすることの出来ない、口にして味わうことの出来ない貴重な体験と知恵を向こう側から授けられるように思います。

ボランティア、それは人からの賞賛を目的として自分の計画通りに運んだり、自己アピールの資料集めを目的に奉仕・活動したりすることではありません。むしろ、無になって、真っ白になって、かつ喜びながら人と交わり、人と会話し、人と協力し合って奉仕・活動することから始めるのです。自己満足のためのボランティアは、人の為にも自分の為にも無駄な時間と労力を失うことになるでしょう。

ボランティアを始めるにあたって不安を抱くかもしれません。でも先ず、その機会を与えられたことに感謝しながら、自分の目の前にある奉仕・活動を実践してみてください。そこから少しずつ人間にとって何が一番大切なものであるかに“気づかされる”でしょう。

この秋、あなたもあなたに出来るボランティアを実践してみませんか。きっと心の視野が広がり、これまで気づかなかったあなたの人生に“新たな灯り”が灯されるのではないのでしょうか。

「暗いと不平をいうよりも、すすんで灯りを灯しましょう。」





イエスは、「律法学者のようにではなく」、神からの絶対的な「権威」をもって語り、行動している。こうしてすでにその生前からイエスは誰かという問いが生じ、彼を教師、預言者、キリストと見なす傾向が見られる。

(1) イエスの示した権威：

「人々はその教えに驚いた。律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えたからである。」(マルコ 1:22)

「人々は皆驚いて、論じあった。『これは一体どういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。』」

(マルコ 1:27)

イエスの権威→他の権威や論拠の支えを何も必要としない権威である。また極めて独創的で説得力を持ち、徹底性を備えている。

① 神の国の使信の絶対的主張；

「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ 1:15)

イエスによる絶対的な神の国の主張の根拠は、イエスと父との強固な関係である。「子以外に父を知る者はなく、父以外に子を知る者はいない」、「父母を離れ」、「金持ちの青年への勧告」など。

② 神の国の到来とイエスの存在の不可分の関係；

③ 神についての教えの独自性

④ 神の義に関する絶対的要求；「先ず神の国とその義を求めよ」

⑤ モーセの権威を越える、新しいモーセとしての主張；「しかし私はいう」

⑥ 癒しの力における、悪の力に対する絶対的な勝利宣言；「盲人は見え、足なえは歩き」、「先ず強い人を縛り上げなければ」、「私はサタンが稲妻のように落ちるのを見た」

⑦ 罪人や罪の赦しに対する自由な態度

⑧ 安息日・清めに対する自由な態度

⑨ イエスに従うことを絶対的に要求する。

⑩ イエスへの態度が父への最終的態度の基準であるとする；「子を敬わない者は、子を遣わした父をも敬わない。」(ヨハネ 5:23)

(2) イエスに対する問いかけと様々な評価：

上記のような権威を持って語り行動するイエスに接した人々は、「イエスは誰であるか」という問いを發した。人々は、何の変哲もない普通の人間であったイエスの権威ある姿を見て驚き躓いた。

「この人は大工の子ではないか。マリアの息子ではないか。」ヨハネはイエスが誰であることを知ろうとした。「来るべきかたは、あなたなのですか。」

- ・イエスが人々に与える印象は、律法の教師（ラビ）、知恵の師（カム）、癒す者など。
- ・新約聖書の中では、預言者として描く場面が多い。預言者の特徴の一つは、神の霊を持っていることである。
- ・弟子たちはイエスを誰と思っていたか。ペトロの信仰告白では、メシアと言われている。イエスはその後すぐに受難を予告する。しかし、これは弟子には理解できなかった。メシアは政治的な解放者・勝利者と考えられていたからである。人々はイエスをメシアと呼ばなかったし、イエスもそう呼ばれることを望まなかった。
- ・メシアとは何か。メシアとは超自然的な存在ではない。神の使命を帯びて人々を救う者である。メシアはダビデの子孫からでるという思想から、メシアは王であるという考えが一般的であった。だ

がそれだけではない。メシアは、油注がれた者である。

### (3) イエスの様々な称号：

イエスの尊称について、イエス自身が用いたのか、あるいは後の時代の人の“言葉使い”か、確定できない要素もある。しかし、概ね以下の8つの称号にまとめることが出来る。

#### ① メシア；

ユダヤ教では特定の救済者を指す用語ではない。イエス自身はこの用語が政治的な意味合いを持つことから、この尊称を使うことを避けている。最高法院ではイエスが政治的なメシアとして扱われた・復活後、イエスの弟子たちは、この語を救済論的にとり、イエスの死を神によって意図されたと述べる為にこの称号を用いた。これから原始教会では、メシアの尊称を用いることに躊躇しなくなった。ギリシャ教会にこの語が伝わったとき、もはや使命を表す機能ではなく、固有名詞となった。油注がれた者の意であるキリストが、ギリシャ世界ではイエスを固有名詞化してイエス・キリストとなり、さらにイエス・キリストはメシアであるという用法が定着したと考える。

#### ② ダビデの子；

メシアという語と密接な関係を持つ。イエスが真のメシアであることを示す為に、ダビデの家系や誕生の経緯を記している。この言葉は旧約聖書のナタンの預言に由来する。ダビデ家との特別な契約で、苦難の歴史を歩んでいたイスラエル民族を救う助け主は将来、ダビデ家の家系から生まれると信じられていた。ダビデ王のように、彼がイスラエルを再び独立国家として再興すると信じられていた。ナザレのイエスはそのような政治的独立の指導者として皆から期待されていた。

#### ③ 人の子；

由来はダニエル書 7:13。終末に到来する決定的な審判者。終末のとき、神が直接介入するのではなく、ある仲介者が特別の役割を果たす。そのような人物は当時、黙示文学の中で待ち望まれていた。そこから当時の終末思想の中の特別な役割を担う特定の仲介者として、イエスを理解した“しるし”であろう。

#### ④ 主の僕；

旧約イザヤ 42:1-4 に由来する概念。マタイ福音書で引用されることから、マタイはイエスを主の僕と考えていた。主の僕とは、自ら罪を犯さないのに、民全体のためにそのとがを負う人、もしくは民を象徴していると言われる。苦しむ義人のイメージをイエスにダブらせている。

#### ⑤ 主；

当時は人に対する尊敬の言葉として、また神々や皇帝を指す言葉であった。旧約時代では神の唯一の呼び名であった。新約時代では、イエスの復活と高揚による。つまり、イエスは神と同様に尊敬されるべき方であるという認識が生じた。その後、復活したイエスの固有名詞のようになった。

#### ⑥ 預言者；

当時、終末には一人の偉大な預言者が到来すると考えられていた（申 18:15）。洗礼者ヨハネが「あなたはあの預言者か」と尋ねられているのはそのためである。新約時代では、イエスが申命記の預言者の成就と見なされていた。

#### ⑦ キリスト；

イエスとは「ヤーウェは助ける」という意味で、当時のごくありふれた名前であったが、キリストは油注がれた者という意味で独特の意味を有している。旧約時代から神に特別に選ばれる王や預言者は、油を注がれたのである。新約時代では、そのような背景から、むしろ政治的な独立を目指すリーダーのように考えられていた面もある。

#### ⑧ 神の子；

旧約時代では天使、イスラエルの民全体、選ばれた王、義人がそう呼ばれていた。新約時代ではイエス・キリストが、まったくユニークな意味で特別な使命に選ばれた者として、そう呼ばれ

ている。

- ・ 父なる神との独自の親密性を表す言葉として、父なる神にわが子と呼ばれる。
- ・ 脅威をもたらす存在として、悪霊にもそう呼ばれる。
- ・ イエス自身が承認している名称。
- ・ 百人隊長の信仰告白として宣言される。
- ・ ペトロの信仰告白
- ・ 「子」としての名称もある。父なる神との親密な一体性を表現する。
- ・ パウロにとって、イエスが神の子であることは根本思想である。

最後に「神」と称されるイエス：

新約聖書の中では普通、父なる神を指す場合が多いが、新約聖書の後期の書物には、この表現も見られる（Iヨハネ 5:20、ヘブライ 1:8-9、テトス 2:13）。

主任司祭 松村 信也

## ～地区会便り～

### 2011年度 第5回地区役員会(9月18日)議事録

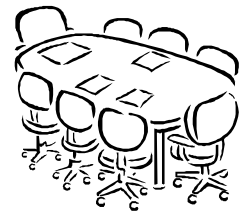
#### 1 納涼の夕べ 報告・反省

- ・ 地区の多くの方に快くお手伝いしていただき、互いに知り合うことができたので良かった。
- ・ 食べ物が少ないのでもう少し増やしたほうが良いとの意見もあった。

#### 2 11月6日(日) 9時ミサ後 チャリティーバザーについて

- ・ 灘北1… 蚤の市
- ・ 灘北1… 炊き込みご飯・洗い場
- ・ 灘南… おでん
- ・ 灘西・中央… 焼きそば、焼き鳥
- ・ 東灘北1… カレー
- ・ 東灘北2・芦屋… おにぎり、巻きずし、手作りお菓子、古着
- ・ 東灘南… 飲み物、綿菓子、ポップコーン

チャリティーバザー準備会を10月16日(日)の10時ミサ後行う。



#### 3 地区連絡網の現状について

訃報についての地区役員への連絡方法の確認

#### 4 地区名簿について

- ・ 教会事務所の信徒台帳整理が終了したことをうけて最新の名簿を作った。
- ・ 信徒数は1,813名(9月8日現在)、今後も地区での信徒の動静把握を続けて行く。
- ・ 病者、高齢者の把握をし、今後どのように関わっていくかを考える。

#### 5 10月8日(土) 9時30分 教会大掃除について

各地区最低5名は参加してほしい。

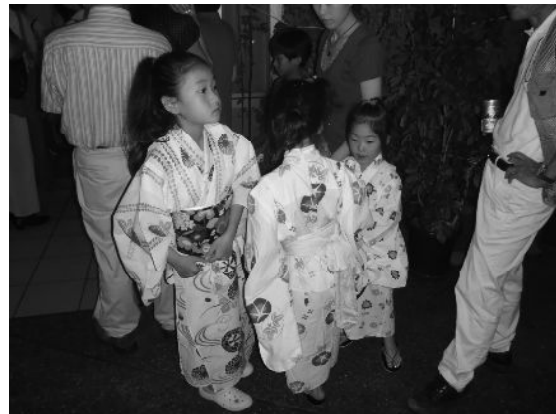
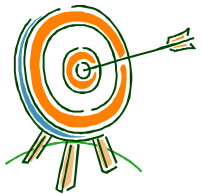
次回は11月27日(日) 11時30分より

## 納涼の夕べ ”ゲームコーナー”

灘北1・北・三田ブロック地区

8月20日の納涼の夕べでは、灘北1地区と北・三田ブロックは「ゲームコーナー」を担当しました。お相手は小さな子どもたちです。前にウォークラリーを子どもたちとしたことがありますが、この日は朝から雨、納涼の夕べも雨の中に準備が始まりました。私はどうやら、子どもたちとかかかわると雨オトコのようなようです。ミサが終わってもまだ雨が降っているのです、本来芝生でやるべき「輪投げ」も「あても」も狭いお御堂入り口で店開きしました。でも、どこから湧いてくるのかと思われるほど子どもたちが来ました。賞品が魅力なのか真剣にゲームに取り組んでいます。係の者は「はい、おつり」「はい、前に寄って」「はい、ここから引いて」「はい、大当たり！！」ガランガランと鐘を鳴らすなど、大忙しでした。前半と後半に当番を分けておいて良かったと思いました。賞品はおおかた捌け、売上は小商いにもかかわらずどうにか黒字を計上。面目を保ちました。

(灘北地区長 訖)



## 納涼の夕べ ”焼きそば開店:細うで奮闘記”

灘南・西ブロック地区



今年度から教会行事は、地区会がイベントを担当し、活性化を目標としています。納涼の夕べでは、灘南・西ブロック地区が焼きそばを担当する事になりました。

7月末より川越地区長をリーダーに準備に入りました。その間、地区長は美味しいと評判のお好み焼き屋さんに通い、焼きそばを焼くのを間近に見て調理方法や材料を調べて、何回も会合を持ちました。はじめは井戸端会議の様相を呈していましたが、会合の中で試食会を開いたり、私達に調理方法を地区長から伝授されながら、実際に作って味見をし、全員が合意しました。

8月7日の実行委員会では予算の了解を得、意気揚々として8月20日(土)を迎えました。午後2時過ぎにはイグナチオの台所には、お手伝いのベテラン主婦&主夫達が集合し、材料等をカットしたり、調味料を分けたり、1回毎に使う材料をビニール袋に小分けにしたりする下準備も5時前に終了しました。

率先垂範で地区長が焼きを担当しました。急いで焼かないといけない事や、作業が多い事で体力的に負担が多いことから、「最後まで1人するのは無理だわ」と言いだされ困った事だな?と思った時、後

ろから声が掛かりました。

「焼きそば焼くのを手伝わせて貰えませんか？」振り向くと成人の男性と学生さんが立って居られました。「どうぞ、どうぞ」と答えると、成人男性が焼き始められました。見事な手捌きで見事な焼きそばが出来あがると、一同感嘆の声を挙げました。作業の合間にお話を伺うと、ご実家がお好み焼き屋さんで、お母様が営業されて居られたとのこと。今回の参加は、お知り合いの方から「納涼の夕べで焼きそばをやるので手伝わないか？」と声を掛けられたことを家族に話をしたところ、息子さんが「バイトを休んでも手伝いたい！」と言われ、ご一緒に来られたとの事でした。お名前は安田さんで、最近転入されたニューフェイスでした。

ミサが終わり、加わった女性達も日頃の力量を発揮されて皆様の手際も見事で次々と焼きそばは出来上がりました。この間に雨足は強くなり、待つ方々の行列は延びていました。地区長は行列の人達の対応と釣銭の受け渡しに声を嗄らして奮闘。その時「まだそばが100食位残っている」と報せが入り、少し不安な気持ちになりましたが、そこは主婦の底力！イグナチオの台所でやきそばを作り、次々とパックに入ったやきそばが届けられ、みるみる行列の最後尾。約170食を完売しました。

皆様から美味しかったと言って戴いたのはとても嬉しかったです。地区会の力が結集し、協働できたことは大きな喜びでした。みなのご協力で無事仕事が達成されたと思います。

“手をつなぎ、心をつないで夏祭り” だなと感じて心豊かな夜でした。  
一緒に働いて下さった方、買って戴いた方皆様有り難うございました。  
感謝！感謝！



～ チャリティーバザーにむけて ～

11月6日(日)にチャリティーバザーが開催されます。

今年のテーマは「愛を届けよう」です。

今年から地区会単位で各店を担当します。

- 蚤の市の品物を集めます。食料品、日用雑貨、衣類、食器類など（新品に限ります）のご寄附をお願いいたします。10月中旬に聖堂入口に箱を置きますのでお入れください。
- 手作りお菓子のご寄附をお願いいたします。焼き菓子で日持ちのするもの。バザー前日か当日の朝、値札をつけてお持ちください。
- 10月8日(日)～29(日)のミサの折に食券を販売いたしますのでどうぞお買い求めください。

<行事報告>

∞∞∞ **ワールドユースデー(8月16日～21日)** ∞∞∞

8月16日から21日まで、ワールドユースデー(世界青年大会)がマドリードで開催されました。ワールドユースデーは、教皇様の呼びかけに応じて、世界中から青年が集まり、キリストの受難と復活を祝う祭典です。マドリードには、193カ国200万人が同じ信仰のもと集まりました。今年のテーマは、「キリストに根ざして生きる」です。私は、国際ボランティアとして参加する機会に恵まれました。

大会の最大のイベントは、クアトロ・ビエントス空港というマドリード郊外の空港で、サッカー場48個分と言われる広大な土地に、教皇様を囲んで、世界中からの司教様800人(日本人は5名)、司祭14,000人(日本人は30名ほど)、巡礼者150万人以上(日本人は500名ほど)が集まりました。前夜には教皇様と聖体礼拝を行い、巡礼者はそこで野宿をし、翌朝、教皇様の司式する閉会ミサで派遣されて、大会が終わりました。言語も文化も異なる人たちが、一つのミサを献げることは大きな感動であり、その場にいることが信じられないお恵みでした。教皇様の「信仰は支え合うもので、あなたの信仰も誰かの支えになるかもしれない」との言葉が、150万人を超える人々を前にとても力強く響きました。

ワールドユースデーは、ミサだけでなく、十字架の道行き、赦しの秘跡、聖体礼拝、お告げの祈り、ロザリオの祈り、司教様によるカテケージスと、信仰を深めるための体験がプログラムの中心となっています。日本で行われていることと、まったく同じことを他の国でも、どこの国でもやっているのだと、カトリックの普遍性を身を持って体験することができました。

この大会を通して、準備の段階から、教皇様のメッセージを読み、「生」で教皇様を見ることで、教皇様の印象もとても変わりました。体が大きくて、ちょっと怖い印象の教皇様でしたが、マドリードの教皇様は、始終にこにこして、赤い靴を履いたかわいらしいおじいさんでした。そして、教皇様のメッセージは、おだやかで、力強く、平和に満ち、「親愛なるみなさん」と呼びかけるメッセージは、青年を教会の宝として大切に思っていることが伝わり、キリストとの友情を深め、キリストを世界に証しするように青年を力づけてくださるものでした。

ワールドユースデーでの体験は、神様の愛を確信し、神様のために働く喜びを知るものとなりました。この信仰の喜びを多くの人に伝えたいとの熱い思いをいただく旅となりました。

次回のワールドユースデーは、2013年リオ・デ・ジャネイロです。

(本郷)



<行事報告>

∞∞∞ **聖書朗読リレー(8月27日)** ∞∞∞

Lectio divina ということばは、公会議の公文書で「聖書の朗読」のことだそうです。祈りながら朗読する、というのが基本で、①lectio(朗読)、②meditatio(黙想)、③oratio(祈り)、④contemplatio(観想)を構成要素とするのだそうです。

今年も聖書リレー朗読の季節がやってきました。夏も終わりがけ、緑陰ならぬ小聖堂のひんやりとした空間で、しみじみと聖書をひろげて朗読するのは中々楽しいものです。ひとり 10 分の持ち時間。行儀よく順番を待ち、自分の番が来たらいくばくかの高揚感にひたりながら声を張り上げる。発音は明瞭かな、声は大き過ぎないかな、などとときおり考えながら読みます。10 分経って、適当な段落でタイムキーパーのやさしい合図があります。つぎの朗読者にバトンタッチ。ひと仕事終わりました。目礼をして席を立ちます。



Lectio divina になったかどうか。でも、すがすがしい気持ちになりました。まだ経験しておられない方には是非おすすめします。早朝から夕方まで自分の好きな時間を選べます。

今年もお世話下さった方々ありがとうございました。 (詫)

膝の上で何気なく開いた聖書。そこに書かれている言葉は何故かその時の自分の気持ちに近い言葉で力を与えてくれます。聖書の言葉には不思議な力が在りますね。朗読リレーは大勢の人が一堂に集まり順番に読みつないでいきます。自分の番がくるまで聖書を見ながら一心に聴いています。その言葉は一人で黙読したり、また声を出して読むよりもっと心に届きます。全員で聴く。祈りの一つの形だと思います。

暑い八月の最後の土曜日に開かれたこの会に、数年前からお誘いを頂き参加するようになりました。暑い夏に企画し準備するのはいろいろご苦労があることと思います。いつまでも続けて頂きたいと思うとともに、参加者が増えればよいなと思います。子供さんが読んでいらっしやいましたね。あれはいいなと思いました。 井本 (住吉教会)

<行事報告>

### ∞∞∞ 東北ボランティア報告会(9月4日) ∞∞∞

9月4日(日)の10時ミサ後に、東北ボランティア報告会が聖堂にて行われました。今回夏休みに教会の代表としてボランティアをしてきた高校生4名とリーダー2名が、それぞれが感じたことを、スライドを流しながら話しました。

全員に共通したことは「つながりの大切さ」であったように思います。そして何よりも、高校生のそれぞれの言葉は実体験に基づいたリアルな言葉だったので、どこか心に響くものがあつたのではないのでしょうか。

今後も継続して、この「つながり」を大切にしていきたいです。今回、ボランティアとして派遣下さったことを教会の皆様には感謝しています。ありがとうございました。 (吉村)

<行事報告>

### ∞∞∞ 秋の墓参(9月11日) ∞∞∞



9月11日 秋の墓参が滞りなく行われました。夏の終わりにしてはちょっと晴れすぎたかな、と思うくらいの晴天で、摩耶山の緑、青空がまぶしいほどでした。

今回が初めての片柳司祭の司式で納骨式が行われ、6体の御遺骨が共同墓地に無事収められました。そして、ロザリオの祈り、その他の墓地の祝福と続きました。

次回の墓参は11月2日の死者の日です。

墓地委員会 SF







## 福島支援のための野菜販売について



9月18日に行われた「福島支援のための野菜販売」では、本当におおぜいの方が来てくださり、用意した野菜果物は、おかげさまで、あっという間に完売しました。皆さまのご支援、ご協力に心から感謝いたします。初めての試みで不手際も多く、ご迷惑をおかけしたこともあるかと思いますが、どうぞお許し下さい。

「買ったかったのに、買えなかった」というお声も多く、皆さまの被災地支援のお心に答えるためにも、今後も「福島支援のための野菜販売」を続けていきたいと思っておりますので、皆さまの更なるご支援、ご協力をお願いいたします。  
(社会活動部)

**次回販売 10月2日(日) 7時、10時ミサ後 聖堂外にて**

～．．．～

### \*\*\* 絵を描いてみませんか！ \*\*\*

六甲教会に「<sup>むつみかい</sup>六美会」という絵のサークルがあります。

1年半～2年ごとに作品展を開催していますので、ご存知の方も多いと思いますが、「えっ、それ何？」という方もいらっしゃるでしょう。

日本画家の信國睦子(のぶくにむつこ)先生のご指導の下に、現在10余名が絵を描いている会で、発足後10数年経ちます。絵が好きで、得意な人の集まりと思われるかもしれませんが、メンバーは固定されていませんので、初心者大歓迎なのです。最初はデッサンから、色鉛筆、顔彩絵具へと進んでいきますが、一人一人のペースで見てくださいませ。

私はどちらかというと絵は苦手でした。誘われて習いだし約3年経ちますが、「絵が好き」の域にはまだ達していません。ではなぜ描いているの？と思われるでしょうか。その時間は描く事に集中して心が無になり、日常の諸々も忘れていたからです。そして、先生に教えていただき、手を加えていただきながら、少しずつ面白くなっているところで、老後の楽しみになりそうな予感がします。絵との出会いを下さった神に感謝です。

ただいま会員を募集しています。信者の方も、そうでない方も、老若男女問いません。興味のある方は、毎月第3金曜日(原則)10時～12時、第2会議室にて作画していますので、ぜひ見学に来てください。

(申込みに関しては、世話係りの 天木香代子・黒澤まさみ にお尋ねください。)

イグナチオホールの大作「<sup>しゅうえん</sup>秋 炎」、2階廊下の「<sup>しもくれん</sup>紫木蓮」は信國先生の作品です。

ご覧になってください。



「六美会」 黒澤

## 遠くのもの大きく見える

助任司祭 片柳 弘史

四十日の後、彼らは土地の偵察から帰って来た。パランの荒れ野のカデシュにいるモーセ、アロンおよびイスラエルの人々の共同体全体のもとに来ると、彼らと共同体全体に報告をし、その土地の果物を見せた。彼らはモーセに説明して言った。「わたしたちは、あなたが遣わされた地方に行って来ました。そこは乳と蜜の流れる所でした。これがそこの果物です。しかし、その土地の住民は強く、町という町は城壁に囲まれ、大層大きく、しかもアナク人の子孫さえ見かけました。ネゲブ地方にはアマレク人、山地にはヘト人、エブス人、アモリ人、海岸地方およびヨルダン沿岸地方にはカナン人が住んでいます。」

カレブは民を静め、モーセに向かって進言した。「断然上って行くべきです。そこを占領しましょう。必ず勝てます。」しかし、彼と一緒にいった者たちは反対し、「いや、あの民に向かって上って行くのは不可能だ。彼らは我々よりも強い」と言い、イスラエルの人々の間に、偵察して来た土地について悪い情報を流した。「我々が偵察して来た土地は、そこに住み着こうとする者を食い尽くすような土地だ。我々が見た民は皆、巨人だった。そこで我々が見たのは、ネフィリムなのだ。アナク人はネフィリムの出なのだ。我々は、自分がいなごのように小さく見えたし、彼らの目にもそう見えたにちがいない。」(民数記 13:25-33)

主が与えて下さると約束したカナンの地を偵察してきた人々が、モーセにその結果を報告する場面です。カレブ以外の者たちは、カナンの地にすでにたくさんの先住民がいることに恐れをなし、その土地には巨人が住んでいるとさえ報告します。そして、「我々は、自分がいなごのように小さく見えた」とさえ言うのです。

冷静に考えれば、どんな巨人でもそんなに大きいはずがありません。おそらく彼らは遠くから先住民たちの姿を見ただけで判断したのでしょう。遠くにあるものは、実際より大きく見えることがあるのです。心に恐れを抱いているときはなおさらです。しかし、彼らはやがて先住民との戦いに勝利します。生きている神が、彼らの傍にいて、共に戦ったからです。

このようなことが、日常生活の中でもあるように思います。遠い先のことまで見渡すと、そこにあるものが実際よりもはるかに大きなものに見えて戦う前から逃げ出したくなる、そんなことがあるのです。例えば修道生活にしても、様々なトラブルや困難に直面して不安に陥っている時などは「一体いつまでこんなことが続くのだろう。先にはもっと困難なことが待っているに違いない。これから何十年も修道生活続けるのは無理だ」というように考えてしまいがちです。きっと、結婚生活やその他の召命の道でも同じようなことがあるのではないのでしょうか。

しかし神を信頼してそこで踏みとどまり、実際に困難に直面するとき、わたしたちはその困難に打ち勝つことができます。なぜなら、神がわたしたちの傍にいて、わたしたちと共に戦ってくださるからです。神に信頼し、神と共に戦う限り、わたしたちはどんな困難にも打ち勝つことができるのです。その時わたしたちは、仮に自分がいなごのように小さなものであったとしても、巨人を打ち倒す力を与えられていることを知るでしょう。先のことを心配しすぎることなく、生きておられる神を信頼して、まっすぐに「約束の地」へと進んでいきましょう。



<三重県、赤目四十八滝にて>

2011年度チャリティーバザー  
「愛」を届けよう!

2011年11月6日(日)  
9時ミサ後～

地区会が主体となって開催される初めてのチャリティーバザーです。  
ご家族、ご友人、ご近所の方を誘って、ぜひご参加ください。  
みなさまのご協力をお願いいたします。

蚤の市(食料品、日用雑貨、衣類、食器類など)

古着

炊き込みご飯、おにぎり、巻きずし

焼きそば、焼き鳥

カレー、おでん

手作りお菓子、綿菓子、ポップコーン

飲み物

その他いろいろ



作業室のデスクトップ PC をお使いのみなさまへ

作業室(信徒会館2F)のデスクトップパソコンのメンテナンスを行います。

現在、パソコン内にデータを保存されている方は、必要があれば、各自でデータの保存をお願いいたします。一度、初期化を行いますので、データは全て消去されます。ご了承ください。

作業予定日：11月20日頃

何かありましたら、広報部にご相談ください。



## みんなの広場

### 「テレジア」

三好

10月1日は「小さき花。聖テレジア（幼いイエスの）おとめ教会博士」の記念日。10月15日は「大聖テレジア。聖テレジア（イエスの）おとめ教会博士」の記念日。対照的ともいえる二人の教会博士聖テレジア。共通しているのは二人とも観想修道会カルメル会の修道女であること。教会博士「大聖テレジア」は「イエスのテレジア」をその名とし「完徳への道」「霊魂の城」など多くの著作で神秘神学や信仰に多くの影響を与え、カルメル会の改革など多くの業績を残し67年の生涯を閉じた。もう一人の教会博士「小さき花」は、跡を受けて「幼いイエスのテレジア」をその名とした。観想修道会の中であって外面的な業績は何もない、24年の生涯であった。そのテレジアは、「宣教の保護者」とされている。

10月4日にはもう一人の「小さき花」、アシジの聖フランシスコを記念する。二人のテレジアとは違って聖フランシスコは金持ちの息子、放蕩三昧の生活をしていた聖人である。

さらにもう一人の「テレジア」、アグネス・ゴンジャ。「マザー・テレサ」は一旦立てた誓願をパパ様に願って解かれ、新たな誓願を基に80年余巻に成聖を遂げた。

神は一人一人にその道を備えておられる。李聖一師はその著「希望のアパロギア」の中でこんな指摘をしている。「しかし、残念ながら、現在の教会には「信徒の霊性」を確立するモデルが存在しません。もっと簡単に言えば、信徒の生き方として信徒に提示できるモデル、すなわち、『聖人』がいないのです。」（p292）

「毎日のミサ」「カトリック新聞」「女子パウロ会Laudate聖人伝」などを集めて自分なりの「聖人伝」を作っているが、確かにいわゆる「平信者」の聖人は殆どいない。

「聖人」とは何？ 神の至福に与っている人たちのこと。人間は誰でも「成聖」つまり「聖人になること」が実現しなければ人生はすべて完全にパーになる。それでもこの現実をどれだけ意識しているだろうか。「分かっちゃいるけど止められない。」？

10月は「ロザリオの月」、ロザリオは主の生涯、それは又マリア様の生涯。「海の星」は今も消えることなく行く手に輝いている。

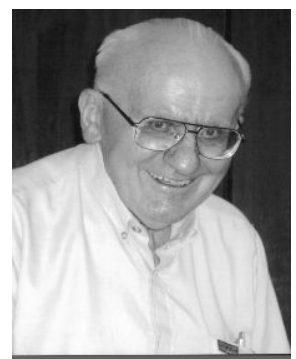
11月1日は「諸聖人の祭日」、2日は「死者の日」になっている。聖暦年は今日をどう過ごすのかを示している。

### 初めて出会った神父

私が初めて外国人神父と出会ったのは、中学に入ってからだった。それまで私の生活圏では、外国人と接触するのは完無に近かった。それだけに中学に入って各国の神父と出会うことは、好奇心の強い少年にとって日々新たな驚きだった。外国切手が珍しく、神父さんの部屋に行ってはそれをもらい収集した。今、考えてみると、切手欲しさに公教要理の勉強に行っていたのかも知れない。

そんな学校生活の中で出会ったのがハンガリー出身のネメシュ神父だった。当時、私にとっては英文法の先生でもあり、公教要理を通じてキリスト教に導いてくれた師でもあった。私の洗礼名エドモンドはネメシュ神父の霊名からいただいた。彼はその後の私の人間形成に大きな影響を与えた師と言えよう。

学校を卒業してしばらくの間、ネメシュ神父と接触する機会はなくなったが、次に出会ったのは結婚



後数年経ったある日、東京から友人夫婦と神戸に来られた時だった。「今、関東ではME（マリッジエンカウンター）という夫婦の出会いの活動をしている。君も関西で拡大する手伝いをしてくれないか」と言われ、あっけにとられている私達夫婦も強引に引き込まれた。当時は京都と四国そして私たちの3カップルでスタートしたが、まだ幼い2人の子供を教会の親しい夫婦に預けて、近くは阪神間、遠くは尾道まで出かけてMEの輪を広げていった。また東京にも出かけ、関東のカップルとの交流や我が家で週末に阪神間のカップルが集まり、分かち合いをしたことも今では懐かしい思い出となっている。

ネメシュ神父は1949年にハンガリー動乱から逃れ、日本での44年間に六甲学院や栄光学園の教師、上智大学神学部の教授を歴任後、MEやCLC活動、貧しい人々との関わりなどに尽力され、日本を離れてからルーマニア西部の修道院長を務められた後、50年ぶりに母国に戻り、イエズス会副管区長を最後にこの8月に永眠された。

師の著書「喜んで世話になる生き方」（夢窓庵 出版）にも「私は死を楽しみにしています」と言われているが、神父として精一杯生き抜かれた師だからこそこの言葉が言えるのかも知れない。心から「お疲れ様でした！ありがとうございます！」と感謝の気持ちを述べたい。（蛭田）



<前列左から4番目が私>



<旧六甲教会聖堂にて>

ネメシュ神父による堅信式



<p>教会報 11月号の発行は、10月30日（日）です。          編集会議は10月23日（日）です。          記事原稿は、10月16日（日）正午までに信徒会館          受付へご提出願います。 (広報部)</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会          〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21          電 話 078-851-2846          F A X 078-851-9023          発行責任者 松村信也 神父          編 集 広 報 部</p>
<p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p>	